

コロナ禍における防災訓練について

凸版印刷株式会社 東日本事業部 総務部長 和泉正善

凸版印刷(株)東日本事業部は、北は青森県から南は埼玉県まで、東北のみならず北関東や新潟県を含む東日本エリアの広範囲にわたって、得意先とお取引させていただいております。一昨年より、「すべてを突破する。TOPPA!!!TOPPAN」をキャッチフレーズとした、テレビCM等を発信させていただいているように、従来の印刷業ばかりでなく、企業や自治体の課題解決をサポートする情報発信企業として、DXやSXを駆使した事業活動を展開しております。

さて、当事業部の防災訓練は工場が24時間稼働していることもあり、全従業員を対象とした訓練と夜勤者を対象とした訓練を年1回ずつ実施しております。直近では全従業員を対象とした防災訓練を11月2日に実施いたしました。訓練は巨大地震の発生を想定した応急避難、工場内での出火に伴う初期消火および通報訓練。屋外への避難訓練という内容となります。コロナ禍の対策としては、400人以上の参加者を1箇所の避難場所に集めると密が生じてしまうことから、複数箇所に避難場所を分け、前後左右の間隔を確保して実施いたしました。実施後は、各部門の安全衛生委員会メンバーによる訓練評価を行ない、指摘のあった点を改善してさらなる防災活動のレベルアップにつなげたいと考えております。その他、災害発生に備えた活動として、事業所幹部の非常時連絡手段の使い方の確認、充電器のバッテリーチェック、災害備蓄品の棚卸、安否確認システムの訓練発報等を11月中に実施しております。この中で安否確認システムの訓練発報では、発報後24h以内に対象者のほぼ100%の方が回答を済ませております。

訓練を重ねるたびに、災害に備えることの重要性に対する従業員の理解は深まっております。コロナ禍はまだ続いておりますが、訓練においては、コロナ対策を考慮しつつ改善を重ねていくとともに、災害備蓄品の充実と棚卸を行って有事に備える活動を継続してまいります。最後

に災害に対する従業員への教育も欠かせない内容であり、自然災害ばかりでなく、防火、交通事故、労働災害に関する情報発信も漏れなく実施してまいります。



コロナ対策 避難中は間隔空けて



コロナ対策 第1集合場所 避難完了!



停電時に近い環境下で初期消火訓練